



成果指標				
成果指標	延長保育と一時保育の実施保育所数の合計			
指標設定の考え方	次世代育成支援の事業として、延長保育と一時保育の実施保育所数を増加する必要があるため、2つの保育の合計を成果指標とする。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目標	7	7	7	7
実績	5	5	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	核家族化や夫婦共稼ぎなどにより、サービス対象者が増えることが予想されるため、更に充実した事業を企画する必要性があると思われる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	保育士の資質向上のための研修会を適宜開催し、保育内容の検討を繰り返し行うことが必要である。子ども・子育て会議などの意見も取り入れながら保育サービス内容の充実を図っていく。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題